

国際地理オリンピックに ようこそ!

第8回科学地理オリンピック日本選手権
および第11回国際地理オリンピック選抜大会



<http://japan-igeo.com/>

主催:国際地理オリンピック日本委員会 共催:公益社団法人 日本地理学会、公益社団法人 日本地球惑星科学連合、独立行政法人 科学技術振興機構(JST)

後援:文部科学省、日本地理教育学会、日本地図学会、人文地理学会、経済地理学会、東北地理学会、地理科学学会、地域地理科学会、一般社団法人 地理情報システム学会、
公益社団法人 東京地学協会、一般財団法人 日本地図センター 協賛:帝国書院、二宮書店、古今書院、日経ナショナルジオグラフィック社 助成:一般社団法人 東京俱楽部

国際地理オリンピックは 地理力を競う

「国際地理オリンピック」は
3つの種目で競います。

◆記述式テスト(WRT)

さまざまな地理的な現象や地域の課題についての問い合わせに、地形図や主題図、写真などの資料を手掛かりに答えます。答えを導き出す過程も採点の対象になります。

◆マルチメディアテスト(MMQ)

地図、写真、グラフなどを使って、そこで表されている地理的な現象や課題を読み取るテストで、解答は4つの選択肢から選ぶ客観式テストです。

◆フィールドワークテスト(FWT)

指定された地域のコースを歩きながら観察します。いくつかのチェックポイントをまわり説明を受けます。競技者は、観察した地理的な現象や地域のようす、観察できる景観などからメモを取りながら歩きます。いくつかのチェックポイントでは課題を行います。野外での観察と作業のあと、それらをもとにした問題に答えます。問い合わせが求めていることを的確に表すことが求められます。

「地理オリンピック」の共通言語は英語です。国際地理オリンピック(世界大会)ではすべて英語での出題と解答が求められます(辞書の持ち込みは可)。そのため、科学地理オリンピック日本選手権でも全体の2割の問題は英語による出題・解答です。英語による解答は、上手な文章でなくても、論理的に正しく的確に表現することが大切です。非英語圏の国々からも、多くのメダル受賞者が出ています。

「地理オリンピック」の世界大会や地域大会では、さまざまな国の学生や先生と交流することも目的とするところです。世界には、「地理」を理科の科目のひとつとして学んでいる国もあれば、地理と歴史が補完的な関係を持ち同じ先生が地理と歴史を教える国もあります。さまざまな国・地域から集う学生や先生と交流し、お互いの国の文化、教育などについてさまざまな相違点を共有し合うことは地理オリンピックの大切な役割です。

地理オリンピックの歴史

地理オリンピックのルーツは、1965年、エストニアの大学生が企画した「環バルト海地理競技会」がルーツです。地理学を学ぶ学生が国の大垣根を越えて集まり、共同で問題を作成して地理教育の未来を語り合いました。

1994年に行われたIGU(国際地理学連合)の総会(プラハ:チェコ)で、オランダとポーランドの委員が「国際地理オリンピック」を提案しました。それ以降、10回の世界大会と3回の地域大会が行われました。そして2014年には、クラクフ(ポーランド)で第11回国際地理オリンピック iGeo Krakow 2014が行われます。

国際地理オリンピック(世界大会)

第1回大会	1996年	ハーグ:オランダ
第2回大会	1998年	リスボン:ポルトガル
第3回大会	2000年	ソウル:韓国
第4回大会	2002年	ダーバン:南アフリカ共和国
第5回大会	2004年	グディニア:ポーランド
第6回大会	2006年	ブリズベン:オーストラリア
第7回大会	2008年	カルタゴ:チュニジア
第8回大会	2010年	台北:台湾
第9回大会	2012年	ケルン:ドイツ
第10回大会	2013年	京都:日本

地域地理オリンピック(地域大会)

第1回大会	2007年	シンチュー:台湾
第2回大会	2009年	つくば:日本
第3回大会	2011年	メリダ:メキシコ

科学地理オリンピック
日本選手権 兼
国際地理オリンピック
iGeo 選抜大会

第1次選抜:マルチメディアテスト

上位およそ100位まで

第2次選抜:記述式テスト

金 銀 銅 メダル授与

成績優秀者を対象とする
第3次選抜:フィールドワークテスト

選抜試験の成績などを総合的に評価して日本代表候補を選考する。
うち4名を日本代表として国際地理オリンピックに派遣する。

国際地理オリンピック
iGeo

- 記述式テスト
- マルチメディアテスト
- フィールドワークテスト

文化交流

金 銀 銅 メダル授与

◆募集要項

参加資格

2013年4月以降、大学およびそれに相当する教育機関で教育を受けていない19歳未満の者。ただし、世界大会の出場選手（4名）は、2014年6月末の時点で16歳～19歳の者から選出されます。

選抜について

■第1次選抜 2014年1月11日（土）

会場：札幌、函館、山形、一関、仙台、新潟、水戸、東京、静岡、名古屋、上越、富山、京都、福知山、大阪、加古川、岡山、広島、浜田、福岡、久留米、熊本、大分、鹿児島、那覇を予定。

なお、応募状況などにより、会場を変更することがあります。最新の情報を、国際地理オリンピック日本委員会のホームページ（<http://japan-igeo.com/>）で確認してください。また、担当の先生が責任を持って試験会場を提供し、試験を実施していただける場合は、特例的に試験会場を設置することができます。ご希望がある場合には、科学オリンピック共通事務局（TEL: 042-646-6220、E-mail: info@contest-kyotsu.com）にご連絡ください。検討の上、主催者が決定します。

内容：マルチメディアテスト

〈スライドで提示する地図・图表・写真などをつかった問題に答える客観式テスト〉問題の約2割は英語による出題で辞書の持ち込みは紙媒体のみ可能。解答時間は60分。

選考：テストの成績上位約100名が第2次選抜に進みます。

テストの結果は、後日、個人宛てに郵送します。

■第2次選抜 2014年2月23日（日）

会場：東京、大阪などを予定。

内容：記述式テスト

〈地図・資料などの読み解きを中心とした記述式テスト〉問題の約2割は英語による出題で辞書の持ち込みは紙媒体のみ可能。解答時間は120分。

選考：成績優秀者を表彰し、金、銀、銅メダルを授与します。

成績優秀者から選出された者が第3次選抜試験に進むことができます。

テストの結果は、後日、個人宛てに郵送いたします。

■第3次選抜 2014年3月16日（日）

会場：首都圏で実施する予定。

内容：フィールドワークテスト

フィールドワークをもとにした選抜試験を実施する予定で、当該の受験生には直接通知します。

選考：選抜試験の成績などを総合的に評価して日本代表候補を選考する。そのうち4名を日本代表として、2014年8月12日～18日にクラクフ（ポーランド）で開催予定の第11回国際地理オリンピックに派遣します。

個人情報の取り扱いについて

「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」は、国際地理オリンピック日本委員会（以下、「主催者」という）が主催しています。ご提供いただいた個人情報は、次のように取り扱います。参加申込みされる方およびその保護者は、以下の内容について同意した上で申し込みください。

1.個人情報の収集目的について

・「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」においては、参加申込みに際して提供された参加申込者本人およびその保護者に関する個人情報ならびに「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」の各段階において記録・撮影される写真等は主催者が登録され、主催者が本事業の円滑な運営を遂行するために使用するとともに、本事業に関連する各種広報のために利用させていただきます。

2.個人情報の第三者への提供・預託について

・ご提供いただいた個人情報は、「科学地理オリンピック

日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」の実施運営のため、管理されます。提供するにあたっては、主催者は個人情報の適切な管理を実施いたします。

・ご提供いただいた個人情報の一部を、参加申込者の受験される第1次選抜の会場に対して、第1次選抜当日の出欠確認のために必要な範囲内で一時的に提供し、使用後返却回収します。

3.個人情報の業務委託について

・主催者は「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」の申込受付業務および受験業務の一部を株式会社教育ソフトウェアに業務委託しております。

4.個人情報のご提供の任意性について

個人情報のご提供は任意ではありませんが、必要な情報がご提供いただけない場合は、上記利用目的の遂行に支障が生じる可能性がありますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

問題について

過去の問題は、国際地理オリンピック日本委員会のホームページ（<http://japan-igeo.com/>）で閲覧することができます。また、選抜試験の問題の公開は、過去3回分の一部のみです。

なお、2010年までは、第1次、第2次選抜の区別ではなく、マルチメディアテストと記述式テストを同日に行っていました。

参加申込みについて

申込期間：2013年10月1日（火）～12月16日（月）

WEBエントリーは12月16日24:00まで、郵送は12月16日必着。

申込み方法：郵送またはWEBエントリー

参加申込書を郵送する方法と、申込み専用ページからWEBエントリーする方法があります。どちらの申込み方法でも、個人で申し込む「個人申込み」と学校ごとに団体で申し込む「学校申込み」が選べます。なお、応募にあたっては保護者の同意が必要です。WEBエントリーでは保護者同意欄にチェックを、郵送の場合は保護者の捺印を、それぞれ忘れないようにお願いします。

「個人申込み」

申込み専用ページからWEBエントリーするか、本募集要項に添付された参加申込書に必要事項を記入して下記の郵送申込書送付先に郵送してください。

「学校申込み」

在籍校の担当の先生に相談してください。

〈お願い〉ご担当の先生へ：郵送申込みとWEBエントリーが可能です。郵送申込みの場合、参加希望生徒全員に、本募集要項に同封された「申込書」の①を記入させ、さらに、先生が別の申込書に②をご記入ください。それらをまとめ、人数分の個人参加申込書を同封して、郵送申込書送付先にお送りください。

大会参加費等について

大会参加費は無料です。

ただし、会場までの交通費等は参加者の負担となります。

国際地理オリンピックは大学のAO入試・推薦入試等の特別入試の対象です。

科学地理オリンピックで日本代表として選抜された者あるいは日本国内で行われる代表者選考等で一定の成績を収めた者を対象として、筑波大学・東北大大学・駒澤大学では、特別入試の対象となっています。

WEB申込み専用ホームページ

<https://www.contest-kyotsu.com>

参加申込みに関するお問い合わせは

科学オリンピック共通事務局へ！

・TEL 042-646-6220（平日12:00～13:00／17:00～19:00）

・E-mail info@contest-kyotsu.com

郵送申込書送付先

〒192-0081 東京都八王子市横山町10-2八王子SIAビル2F
(株)教育ソフトウェア内 科学オリンピック共通事務局 宛て

5.個人情報の管理者について

ご提供いただいた個人情報は以下の者が適正に管理いたします。

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会

実行委員長 井田 仁康

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会

事務局長 生田 清人

6.個人情報に関するお問い合わせについて

ご提供いただいた個人情報に関して、開示、および開示の結果、当該情報が誤っている場合に訂正または削除のお申し出をいただいた場合には、速やかに対応させていただきますので、下記までご連絡ください。

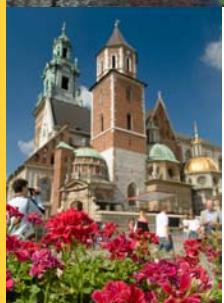
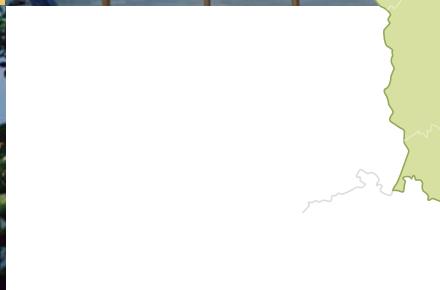
〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

公益社団法人 日本地理学会 事務局気付

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会 事務局

E-mail: geolympiad@ajg.or.jp



第11回 国際地理オリンピック iGeo Krakow 2014

会期 2014年8月12日(火)～8月18日(月)

会場 クラクフ(ポーランド)およびその周辺

iGeo Krakow 2014を目指す方へのOBからのアドバイス

伊藤健太さん

群馬県立中央中等教育学校卒業

群馬大学医学部在学中

iGeo Cologne 2012

日本代表チーム・選手

2012年にドイツのケルンで行われた
世界大会に派遣されました

世界中から集まった仲間たちと過ごした時間は、競技の結果は思うように出ませんでしたが、大変楽しいものでした。自国の文化や将来を熱く語らい、友情を深め合ったのはよい思い出です。地理オリンピックに出なければ重なるはずのなかった、欧米やアジア、アフリカの仲間たちと、一時とはいえ人生が重なり合うというのは貴重な体験です。そこでの重要なツールとなったのは英語です。地理オリンピックでは、他の科学オリンピックとは異なり、競技をはじめすべてを英語で行いますし、世界中の仲間たちとの共通言語も英語です。この大会を通じて、英語の重要性を再認識させられました。

地理オリンピックに対する準備としては、地理の教師用の資料集や統計集を読み、地元(群馬大学)の先生方の指導の下でフィールドワークの実践的練習をしました。そこまでやっても世界の壁は厚く険しいものでした。

地理は、日本では社会科に分類されていますが、実際には、物理・化学・生物・地学・数学といった理系科目や人文・歴史といった文系科目が高度に混じりあった総合科目であり、柔軟な視点を必要とします。自分自身の教養を高め、多面的な視野を手に入れるためにも、ぜひ地理オリンピックにチャレンジしてください。

テストの様子(ケルン大会より)



記述式テスト



フィールドワークテスト

フィールドワーク直前の説明



フィールドワークの様子



フィールドワークの様子

記述式テストの問題配布

◆ここでは科学地理オリンピックの国内選抜試験で出題された問題を紹介します

問題1 マルチメディアテスト(MMQ)

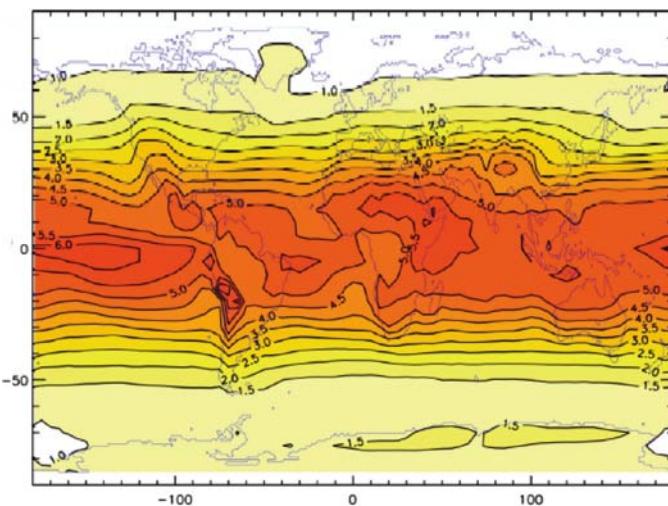
What does this map show?

- ① Annual mean of temperature
- ② Daily range of temperature
- ③ Annual Erythemal UV dose at the surface
- ④ Annual mean concentration of carbon dioxide (CO_2)

Point

MMQは、図や写真から、そこに示されている地理的事象や情報を読みとるテストです。この図は、世界の紫外線量の分布を示しています。陽ざしの強い赤道付近での紫外線量が強いことはすぐにわかりますが、この図を読み取るポイントはアンデスの高地の紫外線がとくに強いことです。いつも地図や資料集の図表をもとに読みとる練習をしてください。

The 2002 WMO/UNEP assessment, Scientific Assessment of Ozone Depletion: 2002



問題2 記述式テスト(WRT)

図は、地表で太陽から受容するエネルギーの年間における緯度別の分布を示したものである。この図で北半球と南半球の緯度20～30度付近に極大がある理由を「雲量」という語句を必ず用いて簡潔に説明しなさい。

Point

南北20～30度、とくに南北回帰線付近は、亜熱帯(中緯度)高圧帯があり、大気が安定して雲量が少ない地域です。このことは、高校「地理」で学習します。記述式テストでは、高校で学習する地理の知識をもとに、提示された資料を見て、地理的事象や地域のようすを読み解き、簡潔で的確な文章にまとめることができます。地理の学習でつかう地図帳や資料集をふだんから関心をもって、見て、考える練習をしてください。



問題3 記述式テスト(WRT)

Photo shows part of Motomachi 2-chome shopping zone. This shopping street was designed for landscapes and pedestrians. Looking at Figure 21, find two features that show such considerations for landscapes and pedestrians.

Point

この問題は、記述式テストに出題されたものですが、フィールドワークテストを意識したものです。写真は横浜市の元町商店街の一角を映したものです。この写真から、この商店街の景観や歩行者への配慮を読み取ります。また、商店街の商店を自分で効果的に分類して、地図を作成し、この商店街の特徴を読みとることを求めています。分類に決められた項目があるのではなくその項目も自らの創意工夫で作ることが求められます。

Photo Motomachi 2-chome shopping zone (December 2012)





2013年8月に京都で行われました /

第10回

国際地理オリンピック iGeo Kyoto 2013



日本代表選手と引率教員

— 京都大会の日本代表生徒と引率教員のレポート —

「火山噴火の予知方法を考えよ」。「ベネズエラやブラジルなどでシェールガス開発が盛んでない理由を考えよ」。これは前回大会の筆記試験の問題です。持っている地理の知識を総動員し、図表を読み取り自分のアイデアを答えるという問題に、選手たちは戸惑いながらも考えることを楽しんでいました。誰も思いつかなかつたことを考えつき、それが答えになり得るというのは取り組みがいのある試験だと思います。自分の考える力を試すつもりで参加してみてはいかがでしょうか。

日本代表引率教員 松本穂高



今回の大会では、習ったことのない問題に立ち向かう柔軟な思考力が試され、教科書で得た知識を応用する難しさを実感しました。さまざまな国・地域から来た選手との交流では、地図上でしか知らないかった各国を立体的に感じたと同時に、他国の日本への関心の高さに驚き、一方で自分の日本に対する理解の不足を痛感しました。これらは皆、地理オリンピックに参加しなければできなかつた貴重な経験です。皆さんも、ぜひ受験してみてください。

日本代表生徒 石原葉月 横浜雙葉高等学校3年(神奈川県)

世界大会は想像以上に密度が濃く、普段の座学とは比較できないほど多くを学べました。英語が思うように話せないのをもどかしく思い、連日のテストや炎天下のフィールドワークに疲れを感じる暇もなく、今まであまり知らなかつた国にもさまざまなイメージが形成され、気づいたら銅メダルを獲得していました。今回の経験は今後の人生の中でも大きなものとなるに違いありません。地理の楽しさに気づかせてくださった学校の地理の先生に感謝いたします。

日本代表生徒 平賀美沙 私立桜蔭高等学校3年(東京都)

地理オリンピックの問題は、現地で断面図を作成する(FW試験)など、幅広い地理の知識が試されます。英語で解答し交流することに負担はありますが、10代のうちに世界のトップ選手と競い交流できる素晴らしい機会になるので、ぜひ挑戦してみてください。また、今年は初めて2名の女子が日本代表選手に選ばれ、女子初のメダル獲得につながりました。他国では女子選手の活躍が多く見られます。男子はもちろんですが、日本からもより多くの女子に、チャレンジしてほしいと願います。

日本代表引率教員 伊東敦子

今回は日本での開催でしたが、世界大会では、日本の地理では目にしないような問題と多く接し、日本の「地理」と世界の「地理」の差を知ることで、自分の「地理」に対する見方を見直すことができました。また、各国選手と交流する中で、地図の上の存在だった外国が具体的なものとなり、視野を世界規模に広げることができました。最終的にメダルを取れず、悔しい思いもしましたが、それでも楽しかったと自信を持って言える貴重な経験となりました。

日本代表生徒 中西公輝 洛星高等学校3年(京都府)

今年は2年目の参加でしたが、なんといってもやはり去年でいた友達との再会や、新たな友達との会話が刺激的でした。各國の参加者を結びつけるものはもちろん「地理」なのですが、逆に「地理」以外に共通点がないような人たちといろんな話をするのがおもしろく、彼らとさまざまな経験談や将来への展望を交わしたことが自分のこれからを考える上で非常にいいスパイスとなりました。私は残念ながら参加できませんが、来年は開催地がポーランドなのでより一層刺激的となるでしょう。

加藤規新 奈良女子大学附属中等教育学校卒業(奈良県)

